

宇治茶の文化的景観の一体性

京都府南部の山城地域に広域に所在する宇治茶の生産地域は、淀川水系に属する宇治川と木津川という2つの河川により結ばれている。各生産地域は両河川によって削られた谷筋や高地に展開し、それぞれに固有の気象条件や地形・地質条件を持ち、個性のある茶を生産する。上流域では高度と深い谷筋が煎茶生産のための露地茶園と茶業集落の発達を促し、中流域では河川敷や平地部に碾茶及び玉露生産のための覆下茶園が展開した。両河川は舟運の動脈でもあり、川沿いに茶問屋街が形成されるとともに、神戸港などの輸出港への運搬にも利用された。山間部の谷筋同士は、峠道で結ばれるとともに、古くからの霊場である鷲峰山への参道によっても結ばれている。広域に広がる生産地は、水陸に引かれたいくつもの線によってお互いに結びつけられ、文化的景観としての一体性を形成している。

至 三重

南山城村

木津川の上流に、京都府内屈指の標高を活かした縦畝に代表される茶園が大規模に展開する。

田山

高尾

今山

童仙房

湯船

奥山田

湯屋谷

原山

釜塚

撰原

和束町

丘の頂部まで駆け上がるような広大な山なり茶園が見る者を圧倒する。

石寺

至 奈良

木津川

木津川市

輸出茶の集積地として栄えた上粕の茶問屋街が水陸交通の要所に形成されている。

上粕

京田辺市

独立丘陵に開かれた飯岡の覆下茶園が象徴的な景観を見せる。

飯岡

白川

上津屋

野尻

岩田

上津屋

至 大阪

宇治市

宇治川が丘陵部を抜けて平地に出たところに広がるのが、中宇治の茶問屋街と覆下茶園である。背後の丘陵部の谷筋には白川の覆下茶園も控える。

中宇治

宇治川

城陽市・八幡市

流れ橋で木津川兩岸を繋ぐ上津屋の覆下茶園が象徴的な景観を見せる。

至 滋賀

至 京都

